

世界中の「新しい音」が
聴ける1dayフェス!

ボンクリ

"Born Creative" Festival 2019

2019.9.28(土)

東京
芸術
劇場

Tokyo
Metropolitan
Theatre



ようこそボンクリへ！

本日は、“Born Creative” Festival（ボンクリ・フェス）2019にご来場いただきまして、誠にありがとうございます。
今年で3回目の開催を迎えることができましたことを、関係者一同心より喜ばしく感じております。

本フェスティバルは、「今の時代の音楽をより多くの人々に楽しんでもらいたい」という思いから、世界的に活躍する作曲家 藤倉大氏をアーティストック・ディレクターに迎え、その融通無碍な感性で選んだ「世界中の新しい音」を、赤ちゃんからシニアまであらゆる人々に楽しんでもらおうという企画です。

このフェスティバルが、既存のルールに縛られない「新しい音楽」への扉を開き、子供の頃のセンス・オブ・ワンダー（不思議への感性）を呼び戻すきっかけになればと願っています。また、社会全体でクリエイティビティの必要性が高まってきている中、このフェスティバルが、人間の創造性を高めるために芸術が果たす役割について考える機会になれば幸いです。どうぞ、ご家族皆さままでお楽しみください。

最後に、本公演の実現のためにご協力いただきました全ての皆様に、厚く御礼申し上げます。

東京芸術劇場

アーティストック・ディレクター：藤倉大

プロダクション・マネージャー：関秀哉

舞台監督：土屋優紀（ニクステージワークス）

音響オペレーター：小内弘行（㈱ジョイサウンドプロモーション）

映像技術：阿達直樹

サウンドデザイン：永見竜生 [Nagie]

ビジュアルデザイン：秋澤一彰（秋澤デザイン室）

イラスト：Milena Mihaylova

ホームページ制作：ディップス・ブラネット

【東京芸術劇場スタッフ】

プロデューサー：鈴木順子

アソシエイト・プロデューサー：横堀応彦

技術統括：白神久吉

技術統括補・音響：石丸耕一

照明・キャプション字幕：新島啓介

舞台：鈴木久仁日呂 高柳幸一

照明：早川美紀子 飯塚ゆかり

音響：渡辺和之 齋藤泰邦 中野雅也 平本顕栄 野島旭貴

制作：柳澤藍 會宮麻矢 首藤明彦 垂水紫織

運営：島啓之 出口マミ 中村よしき 鋤田千里 今井俊介

広報：前田圭蔵 原和美 久保風竹 安田裕美

票券：井上由姫 奥村和代

インターン：猪俣里穂 竹内美来 中嶋莉子 人見百香

ボンクリマニフェスト

「ボーン・クリエイティヴ」、略して「ボンクリ」。これは、「人間は皆、生まれつきクリエイティヴだ」という意味。数年前から僕がやっている福島県相馬市での作曲教室では、5歳から高校生までを対象に世界から現代音楽のエキスパートの演奏家を迎えて特殊技法等をみっちり紹介し、その場で子供達が新しい音楽（現代音楽と呼ぶ人も多いかも知れない）の作曲をする。しかもすべての音や指示を楽譜にきちんと記し、自分の作曲した作品をその場でプロの演奏家に演奏してもらう。子供達が作曲中、演奏家は子供達が作品の一部を確認したり、コラボレーションし、アイデアを楽譜にするために待機し、直ぐに試演できるスペシャルな環境を作っている。

この作曲教室を何年か継続してわかったことは、全ての人間は子供の頃、「新しい音楽」「新しい音」、そして5歳の子供の言葉を借りると「変な音」が好きだったということだ。でもなぜかそのクリエイティビティは成長するにつれ、失われていく。

この「ボンクリ」は、大人になっても5歳の子供のままクリエイティヴでいる人達の作品を、0歳の子供から大人まで楽しめる新しい音楽に触れるためのイベント。演奏家と共に参加し、一緒に音楽を作るワークショップもあり、即興音楽もあり、日本の伝統音楽である笙や三味線も、エレクトロニクス（電子音楽）も、現代音楽アンサンブル作品もある。丸1日、東京芸術劇場館内に「新しい音楽」が満ち溢れる。一生分、少なくとも1年分の“世界中の新しい響き”を堪能することができるまたとない機会をどうぞお楽しみください。

藤倉大（作曲家／ボンクリ・フェス2019 アーティスティック・ディレクター）

藤倉大

Dai Fujikura

作曲家 ボンクリ・フェス2019
アーティスティック・ディレクター
Composer / Artistic Director



©Seiji Okumura

世界で演奏される機会の最も多い作曲家のひとり。ザルツブルク、ルツェルン、BBCプロムス等の音楽祭、北米・欧州のトップ・オーケストラから国際共同委嘱を依頼され、ブーレーズ、エトヴェシュ、ノット、ドッダメル、山田和樹らの指揮者、ムローヴァ、ケラス、諏訪内晶子、小菅優らのソリストが藤倉の作品を初演・演奏している。15歳で渡英。ヴェネツィア・ビエンナーレ音楽部門銀獅子賞、芸術選奨音楽部門文部科学大臣新人賞をはじめ受賞多数。オペラ作品の国際的評価も高く、2015年にジャンゼリゼ劇場／ローザンヌ歌劇場／リール歌劇場の共同委嘱による自身初のオペラ《ソラリス》、18年スイス・バーゼル劇場の委嘱で2作目のオペラ《黄金虫》を世界初演し、大成功を収めた。19年シーズンは、管弦楽作品《Umi（海）》、ニューヨーク・リンカーンセンターで三味線協奏曲の世界初演を成功裏に終える。自身初となる映画音楽参加作品は、10月公開の映画「蜜蜂と遠雷」で作中コンクール楽曲《春と修羅》を作曲。待機作品として、初のダンス作品《Sounding Seven Senses》、ピアノ協奏曲第4番《Akiko's Piano》、3作目のオペラ世界初演等が控える。活動はジャンルを横断し、坂本龍一、デヴィッド・シルヴィアン、ヤン・バング、シゼル・アンデルセンら実験的なポップスやジャズ、即興の世界のアーティストとも共作も数多く、高評価を得ている。録音はソニーミュージックや自身が主宰するMinabel Recordsから作品集が、楽譜はリコルディ・ベルリンから出版。

誰でも楽しめる! 無料プログラム

アトリウム・コンサート(無料)

Atrium Concert

ボンクリ精神あふれる音楽が
東京芸術劇場の館内を駆け巡ります。

Program

●10:50～11:00…ボックスオフィス上ステージ(1F)

東野珠実(笙) Tamami Tono (Sho)

♪東野珠実:まばゆい陽射しを仰ぎ見て

●12:00～12:20…ロワー広場内ステージ(B1F)

本條秀慈郎(三味線) Hidejiro Honjo (Shamisen)

♪藤倉大:neo ダイジェスト版

♪杉山洋一:Ludus perpetuus

♪マリオス・ヨアンノー・エリア:RED

●13:20～13:30…ボックスオフィス上ステージ(1F)

東野珠実(笙)

♪藤倉大:obi (新作一部初公開)

●17:15～17:30…ロワー広場内ステージ(B1F)

佐藤紀雄(ギター) Norio Sato (Guitar)

♪梅本佑利:Euangélion

♪高橋悠治:しばられた手の祈り

藤倉大によるアトリウム・コンサートの紹介は
コチラのQRコードから読みいただけます。



藤倉大からの
ミニ・コメント



電子音楽の部屋

Electronics Music Room

時間 11:00～19:00

会場 アトリエースト、アトリエウエスト(地下1階)

監修 檜垣智也

Supervisor: Tomonari Higaki

今年もアークスモニウム(電子音響音楽の演奏装置)奏者として活躍する檜垣智也さんにこの2つの部屋の監修をお願いしました。そこで今年、檜垣さんは何をしたいですか?と尋ねている時に、全くの別件でデヴィッド・トゥープから僕にメールが来ていて、その返信の追伸で何か未発表音源はありますか?と聞いたら、何曲か送ってくださいました。それを発表します。

あと、BBCのラジオ3の番組に僕が出演した時に、番組録音が始まる前に何か司会者とプロデューサーが色々話しているのを耳にし、質問すると、なんとBBCラジオ3の人たちが集まってランガム・リサーチ・センターという新しい電子音楽を作って発表するアンサンブルをしている、と。そこで作品をどっさり送ってもらって、それも全部ボンクリで発表することになりました。あとは檜垣さんのお知合いのベランジェル・マキシマン、檜垣さん推薦の武満徹の電子音楽作品、あとは檜垣さんが知っている大学生らの作品もこの電子音楽の部屋で発表していただきます。

Program

【A】11:00～/アトリエースト 14:10～/アトリエウエスト
デヴィッド・トゥープ David Toop

【B】11:20～、15:40～/アトリエースト
ベランジェル・マキシマン Bérangère Maximin

【C】12:40～/アトリエースト
午睡の音楽 Music for afternoon sleep

【D】13:40～、17:00～/アトリエースト
武満 徹 Toru Takemitsu

【E】14:20～、17:40/アトリエースト
日本のアークスマティック音楽 Japanese acousmatic music

【F】12:10～/アトリエウエスト
デヴィッド・シルヴィアン I David Sylvian I

【G】14:30～、17:45/アトリエウエスト
デヴィッド・シルヴィアン II David Sylvian II

【H】11:00～、16:35～/アトリエウエスト
ランガム・リサーチ・センター Langham Research Center

【I】12:15～、15:40～/アトリエウエスト
ロバート・ウォービー Robert Worby

※各プログラムの開始時間は多少前後することがあります。

監修:檜垣智也による各プログラムの解説
および上演曲目はコチラのQRコードから
読みいただけます。



入退場
自由

『電子音楽の部屋』監修ノート

檜垣智也(電子音楽の部屋監修)

『電子音楽の部屋』では、子どもから大人からまで「だれでも」、11時から19時まで「いつでも」、電子音楽との「上質」な出合いを提供します。

「だれでも」というのは子どもも大人ということはもちろん、初心者も上級者という意味もあります。電子音楽を上級者だけのものにしてはもったいない。電子音楽はドレミのメロディやリズムの要素が少なめで、変な音がたくさん。まさに「音」そのものを楽しむ音楽です。子どもは変な音を——ときには大人の嫌がる音を——出しては遊んでいます。そんな子どもをみると、じつは大人より子どものほうがむしろ素直に音と上手くやれているような気がします。もちろん大人は大人ならではの聴き方——趣向的・知的・教養的なアプローチ——もできます。

また、この部屋は「いつでも」聞けるように入退場が自由です。他のワークショップの隙間にちょっとしたのぞくもあり、時を忘れて瞑想しながら聞けることもあります。お客さんが少ないときは、寝転んで、うたた寝しながら聴いても面白いです。他人の聴いている姿を眺めながら聴くというのもできそうです。どんな聴き方も自由です。好きな聴き方を見つけて、楽しんでください。

気を配っていることは他にもあります。体験の「上質」さです。様々なスタイルのある電子音楽ですが、共通することはスピーカーを通してきくことです。もちろんパソコンや携帯型音楽プレーヤー、自宅のオーディオシステムでプライベートで簡単にきくことができます。しかししたいの電子音楽の作曲家は、作品の音質にもこだわっています。制作した同じ環境で聴くことは難しいですが——原理的には作曲家のスタジオで聴くしかないわけで——、可能な限り高音質・高出力のスピーカで音源を再生します。耳で聞くだけでなく、体全体で空気の震えを感じ、皮膚で気配を掴んでください。いつもイヤホンで音楽を聴いている人は、その違いに驚くでしょう。

最後に、電子音楽をうまく聴くコツを伝授しましょう。とくに入門したて、または、これから電子音楽に挑戦しようという方は参考にしてください。それはあなたが音になって、音楽という言葉のないストーリーにダイブすることです。やり方は簡単です。まず目を閉じて、落ち着いて静かにしてください。そしてスピーカーから聴こえてくる音の位置や動きを心の目で追ってみてください。次第に空間を縦横無尽に飛び交う音の迫力にびっくりするはずですよ。そうすればしめたものです。もししばらくすると音が体の中に入ってきて、あなたが音そのものになるような感覚がおとずれてきます。映画の主人公に感情移入する、あの感じです。あとは音楽の世界を自由に楽しむだけです。

せっかくボンクリにいらしゃったなら、ぜひ電子音楽の部屋にお立ち寄りください。長いプログラムのお目当てをめぐけてきても、空いた時間にふらりときていただいてもかまいません。この部屋には「上質」な新しい音が「いつでも」溢れていて、「だれでも」入ることができます。

スペシャル・コンサートの

チケットで楽しめるプログラム(事前申込制)

電子楽器

工作の部屋

“Electronic Toys Orchestra’s Room”

時間 11:00~13:00

会場 ギャラリー2(5階)

講師 ジルベール・ノウノ

(ボンビドー・センター〈イルカム〉研究員)

Lecturer: Gilbert Nouno

通訳 縦山智子

Interpreter: Tomoko Momiyama



ボンビドー・センターの一環にある電子音楽研究所のイルカムは、僕も自分のオペラや他のエレクトロニクスの作品で何回も委嘱をいただいて、イルカムに籠って作成したりしていました。そこで友達になったジルベール・ノウノ、その世界では大変有名な方なのですが、彼が子供達と電子楽器工作をして作品を作った、と動画を送ってくれたんです。そこで、これをボンクリでもできないかな?と提案しました。ジルベールは京都にも長期滞在していたこともあり、日本が大好き。快く行きます、と返事をもらいました。パリからやってくるジルベールさんと一緒に電子楽器を工作して、最後にみんなで電子音楽を演奏してみよう!

スペシャル・コンサートの

チケットで楽しめるプログラム(事前申込制)

デヴィッド・シルヴィアン の部屋

“David Sylvian’s Room”

会場 リハーサルルームL(地下2階)

まずは今年の目玉のひとつとも言える「デヴィッド・シルヴィアン」の部屋。

この間もメールでデヴィッドと話していて、僕らが会ったのは2008年だからもう10年以上も友達なんだね、と。デヴィッドは歌手としては知られていますが、作曲家として、紹介したいな、とずっと思っていました。そこで今回デヴィッドの膨大にあるインストゥルメンタル作品だけを集めて部屋を作れたら、と思いました。その話をデヴィッドにすると、大変喜んで、ボンクリ・フェスのために、といろんな作業をしてくれました。その中には未発表音源がボンクリで初公開になる「Manafon: questionable fidelity (the instrumental edition)」、「サラウンド版: When We Return You Won't Recognise Us」ほか、お馴染みの音源もデヴィッドが直々に提供してくれたハイレゾ音源です。

Program

①11:00～11:50

- ♪ When We Return You Won't Recognise Us *
- ♪ Words With The Shaman (Part1) Ancient Evening
- ♪ Words With The Shaman (Part2) Incantation
- ♪ Words With The Shaman (Part3) Awakening (Songs From The Tops)
- ♪ Flux (A Big, Bright, Colourful World)

②12:00～12:50

- ♪ Manafon: questionable fidelity (the instrumental edition) *

③13:00～13:40

- ♪ The Healing Place
- ♪ Answered Prayers
- ♪ Where The Railroad Meets The Sea
- ♪ The Wooden Cross
- ♪ Silver Moon Over Sleeping Steeples
- ♪ Camps Fire Coyote Country
- ♪ The Bird Of Prey Vanishes Into A Bright Cloudless Sky
- ♪ Home
- ♪ Sunlight Seen Through Towering Trees
- ♪ Upon This Earth

④17:00～17:50

- ♪ Manafon: questionable fidelity (the instrumental edition) *

⑤18:00～18:50

- ♪ When We Return You Won't Recognise Us *
- ♪ Plight (The Spiralling Of Winter Ghosts)
- ♪ Premonition (Giant Empty Iron Vessel)

* 未発表音源ボンクリ初公開

Sylvian 24bit album remasters engineered and supplied by Tony Cousins
©Metropolis Studios, London.

僕は実際なんとレイジーなアーティスト・ディレクターなんだろう、と思います笑。というのも、こうしてすごい才能のあるアーティストの友人をお呼びして、あとは「何したいですか?」と聞いてほぼ任す、という感じなのです。今回のノマドのメンバーによる「ノマドの部屋」もノマドの音楽監督である佐藤紀雄さんと僕で、何しようねー、と考えて決めました。壺井一步さんは、僕が初めて知った日本人の作曲家。2003年の武満作曲賞と一緒にノミネートされて知り合い、壺井さんが親切にイギリスに住む僕に日本の本を送ってくださったりしていました。いつか壺井さんの音楽をボンクリで紹介できたら、と思っていたので、実現できて嬉しいです。ジョン・ケージ:居間の音楽、塩見允枝子、高橋悠治は佐藤紀雄さんが大変よく知っていて、大切にしている作品です。僕もこれらの作品を生で聴くのを楽しみにしています。

ノマドの部屋 “NOMAD's Room”

時間 11:00～11:45

会場 シンフォニースペース(5階)

アンサンブル・ノマドメンバーによるコンサート

Ensemble NOMAD

Program

- ♪ ジョン・ケージ:居間の音楽
- ♪ 壺井一步:宮本正清の詩による音楽スケッチ「歌え 杜の小鳥」より
- ♪ 高橋悠治:この歌をきみたちに
- ♪ 塩見允枝子:グラランド・ピアノのためのフォーリング・イベント

*「ノマドの部屋」「トーンマイスター 石丸の部屋」「箏の部屋」は5階、1階、地下1階の中継モニターで同時中継いたします。

トーン マイスター 石丸の部屋

“Tonmeister Ishimaru’s Room”

時間 12:30~13:15

会場 シンフォニースペース(5階)

講師 トーンマイスター石丸、関根愛

Lecturer: Tonmeister Ishimaru, Megumi Sekine

Program

《映画やアニメ、舞台のサウンドエフェクトの作り方を体験してみよう！自分の体が出す音もサウンドエフェクトに、そして音楽になっていく。生きてるって、音楽だ！》

東京芸術劇場のスタッフであり、音響業界では知らない人はいない、という石丸さん。世界のトップクラスの響きを持つ芸劇のホールを隅々まで知り尽くしている方で、石丸さんなしにはボンクリはありえない、と言っても過言ではないです。そんな石丸さんを僕は早くから、「スタッフ」じゃなくて、音の響きの喜びを伝える、ある意味キャラクターになってもらえないかな、と考えていました。去年トーンマイスター石丸さんがやってくださった「ルシエの部屋」のワークショップが大好評だったため、今年ももちろんお頼みしました。石丸さんに今回は何をするのか、と聞いたら、不思議な専門道具や身近なものを使って、映画や演劇で使われる効果音を作る、というワークショップだそうです。さすが芸劇のスタッフになる前には、映画や演劇の効果音を実際作ってお仕事をしていただけあって、僕もどんな感じで効果音が作られているのかを見るのを楽しみにしています。ここで習ったものは実際、家ででもできちゃうこともあるかもしれませんね。

多分箏の歴史が始まって以来一番カッコいい箏奏者、八木美知依さんによる「箏の部屋」。この部屋の予約が始まって1日で定員に達しちゃったという、どれだけ人気なんだ！っていうアーティストです。

どういわけか、僕とはもう15年近く前から知り合いでして、実際コラボはまだしたことがないのですが、ノルウェーのプンクトのアーティストたちとも八木さんはコラボしていますし、デヴィッド・シルヴィアンともお知り合いだと思います。

とにかく、さまざまなアーティストとのコラボレーションを行っている八木美知依さん。自作曲からジョン・ケージ、富田勲まで、幅広い箏の表現を堪能してください。

箏の 部屋

“Koto’s Room”

時間 16:20~17:05

会場 シンフォニースペース(5階)

演奏

八木美知依 Michiyo Yagi 磯貝真紀 Maki Isogai

高橋弘子 Hiroko Takahashi 小山ひとみ Hitomi Koyama

Program

♪ 八木美知依: モンスーン

♪ ジョン・ケージ: ある風景の中で

♪ 富田勲: キャプテン・ウルトラ

♪ クシシュツフ・コメダ: ローズマリーの赤ちゃん

♪ 八木美知依: ルージュ

プンクト の 部屋

“PUNKT’s Room”

時間 17:40~18:25

会場 ギャラリー1(5階)

演奏

ヤン・バング Jan Bang

エリック・オノレ Erik Honoré

アイヴィン・オールセット Eivind Aarset

ニルス・ペッター・モルヴェル Nils Petter Molvær

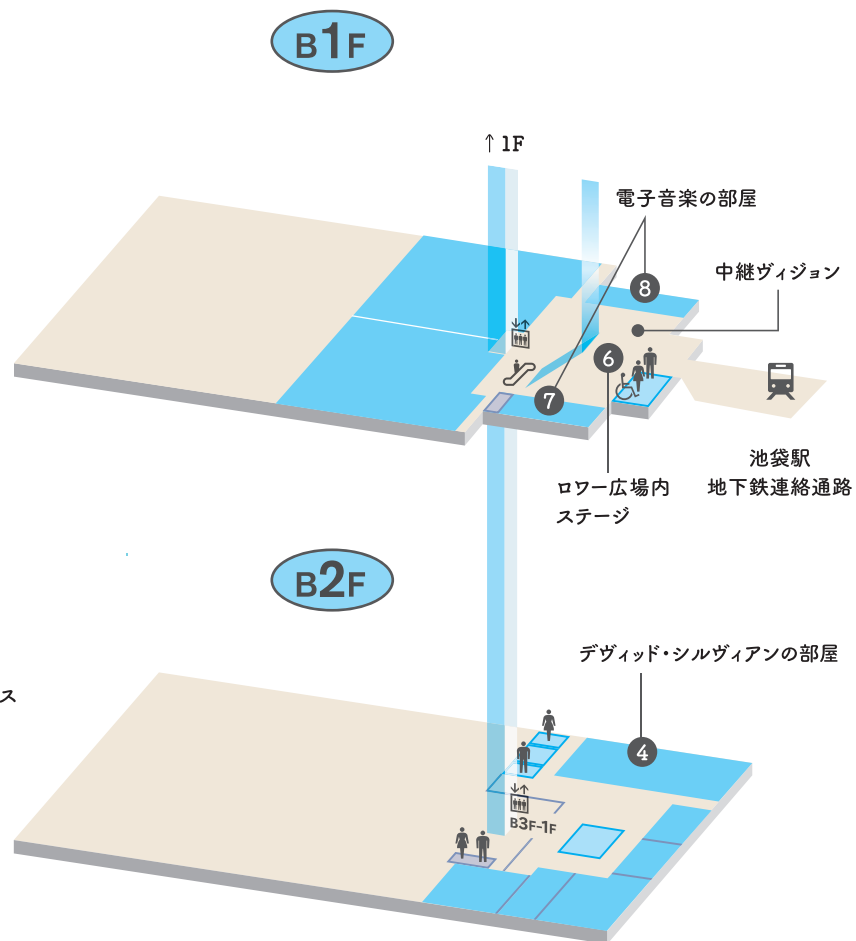
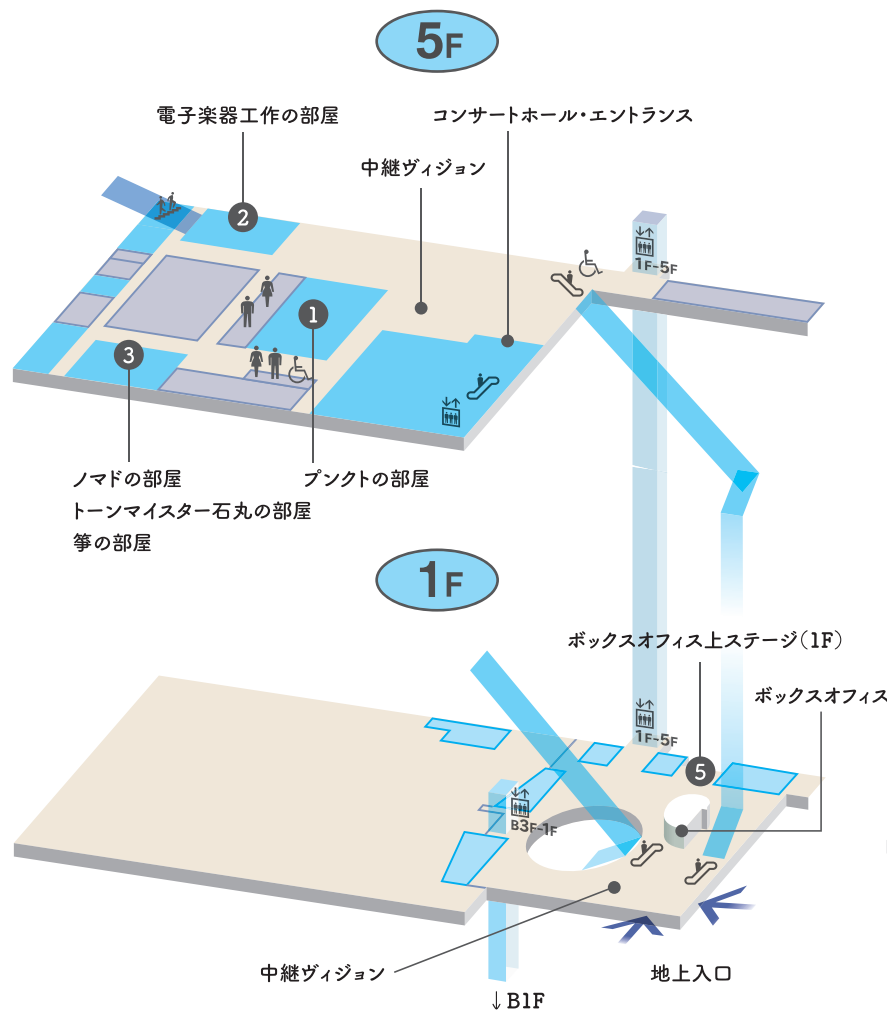
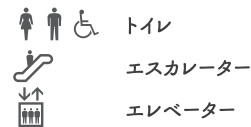
毎年好評をいただいている、ライブリミックスをコンセプトとしたノルウェーの即興音楽祭「プンクト」が今年もやってきます！

プンクト・フェス、実は僕も今年、ノルウェーの「プンクト」に出演しました。「プンクト」のアーティストとは僕が参加したデヴィッド・シルヴィアンの「ダイド・イン・ザ・ウール」で一緒にコラボしました。このアルバム以降知り合いになり、プンクトのアーティストと僕でいくつか作品も作りまし、僕の作品のリミックスなど、ヤン・バングが手がけたものもあります。

毎年ボンクリの打ち上げで「またボンクリにきたい！」というので、毎回来てもらっています。北欧ジャズ／エレクトロニカの魅力を紹介する「プンクトの部屋」。彼らのコンサートをお楽しみに。

フロアマップ

Floor Map



スケジュール Schedule

■ デイタイム・プログラム ■ ライヴ・ビューイング(無料イベント)

	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00	17:30	18:00	18:30	19:00	20:00	21:00
コンサートホール(5F - 7F)						ロビー開場		スペシャル・コンサート								ロビー開場		大人ボンクリ		
① ギャラリー1(5F)																ブントの部屋		入退場自由		
② ギャラリー2(5F)				電子楽器工作の部屋																
③ シンフォニースペース(5F)			ノマドの部屋				トーンマイスター石丸の部屋						箏の部屋							
④ リハーサルルームL(B2F)		①	②	③		①②③④⑤ デヴィッド・シルヴィアの部屋						④	⑤							
⑤ アトリウム ボックス オフィス上ステージ(1F)		10:50～アトリウム・コンサート 東野珠実					13:20～アトリウム・コンサート 東野珠実													
⑥ アトリウム ロワー広場内 ステージ(B1F)					12:00～アトリウム・コンサート 本條秀慈郎											17:15～アトリウム・コンサート 佐藤紀雄				
⑦ アトリエイスト(B1F)																				
⑧ アトリエウエスト(B1F)																				
中継ヴィジョン (B1F・1F・5F)		ノマドの部屋 (同時中継)					トーンマイスター石丸の部屋(同時中継)						箏の部屋 (同時中継)							

※やむを得ぬ都合により、スケジュールが変更になる場合がございます。

スクリーンチケット (定員あり)

未就学児をお連れのお客様を対象に、コンサートのロビー内でスペシャル・コンサートの中継モニターでご鑑賞いただけます。コンサートホールにお入りいただけない小さなお子様と一緒に「ボンクリ」音楽をお楽しみいただけます。

途中入退場 自由

※スクリーンチケットをお持ちの方は開演15分前(13:45)にコンサートホール・エントランス(5階)に集合してください。※会場内にベビーカーはお持ち込みいただけません。コンサートホール入ロフロアにベビーカー置き場をご用意いたします。※配信の中継イベントのため、通信環境等の諸事情により、画像・音声の乱れが生じる場合があります。

スペシャル・ コンサート Special Concert

14:00開演(13:00ロビー開場)
コンサートホール

出演者 Performer

アンサンブル・ノマド
(指揮:佐藤紀雄) [1,2,5,7,9]
ノマドキッズ [5]
福川伸陽(ホルン) [9]
八木美知依(箏) [3,5]
本條秀慈郎(三味線) [5,6]
ヤン・バング(エレクトロニクス) [4]
エリック・オノレ(エレクトロニクス) [4]
アイヴィン・オールセット(ギター) [4]
ニルス・ペッター・モルヴェル(トランペット) [4]
大友良英 [7]
川越聡子(東京芸術劇場副オルガニスト)
(パイプオルガン) [7]
萩原麻未(ピアノ) [8]
藤倉大(エレクトロニクス) [4]

Program

1 モートン・フェルドマン:
サムシング・ワイルド・イン・ザ・シティ
—— マリー・アンのテーマ
(ホルン、チェレスタ、弦楽四重奏のための)

2 挟間美帆: 颯(はやて)

3 八木美知依: 通り過ぎた道

4 「通り過ぎた道」
PUNKTライブ・リミックス

休憩

5 テリー・ライリー: In C

6 坂本龍一: honj I ~ III (日本初演)

7 大友良英: 新作 (世界初演)

8 藤倉大: 春と修羅 (映画『蜜蜂と遠雷』より)

9 藤倉大: ホルン協奏曲第2番
(アンサンブル全編版世界初演)

曲目解説 Program note

① モートン・フェルドマン／サムシング・ワイルド・
イン・ザ・シティ—— マリー・アンのテーマ
(ホルン、チェレスタ、弦楽四重奏のための)
Morton Feldman: Something Wild in the City:
Mary Ann's Theme, for horn, celesta and string quartet
"Morton Feldman Collection, Paul Sacher Foundation, Basel"

この作品は、僕の家の台所にあるラジオからたまたま流れてきた音楽で、なんだか素敵だけど、一体誰の曲なんだろう、と曲の終わりの解説を聞くと、モートン・フェルドマンの映画音楽とあり、びっくり。その日に別件で、たまたまこの録音をリリースしているカイロスというレコード会社の社長とやりとりをしており、その追伸で、この作品ってどうやって楽譜を手に入れることができるのかな? ボンクリでできないかな? と書いてみたところ、カイロスの社長がザッヒャー財団に問い合わせてください、ザッヒャー財団がフェルドマンのご遺族に連絡してください、次の日僕が朝起きたら、「ボンクリフェスでのみ、演奏して良い」と言われて楽譜がメールで送られてきていました。というわけで、この作品を入れないわけにはいかない、それにスペシャル・コンサートの最高のオープニングの曲だ、と思いました。

② 挟間美帆／颯(はやて)
Miho Hazama: Hayate

挟間美帆さんは数年前に坂本龍一さんのオーケストラのコンサートのリハーサルでお会いしたことがあり、僕の友人で僕も数曲コラボをしている三味線奏者の本條秀慈郎さんもお友達であることで活動は知っていました。今回挟間さんの作品で何かできないかな、と連絡して数曲送ってもらったところ、サクスカルテットでおしゃれな曲があったので、サクスはボンクリフェスのこのコンサートには無いので、これを弦楽四重奏に編曲してくださいませんか? とお頼みしたところ、快く承諾してくださいました。

3 八木美知依／通り過ぎた道
Michiyo Yagi: The Road Not Taken

八木美知依さんとはもう10年以上も前から知り合いで、光栄にも八木さんから4ページにもわたる「いつか箏協奏曲を書いてください」という手書きのお手紙をいただいたりしており(まだ残念ながら実現していません)いつか一緒に一緒にしたいな、と思っていました。八木さんの沢山出ているカッコいいアルバムを持っています。なんとPunktのインプロヴァイザー達ともすでにコラボをしているんですね、なんと世界は狭い! 今回は八木さんから「『通り過ぎた道』という地唄の発声を用いた歌と17絃箏の曲です。間奏で17絃のアルペジオをループさせ、その上で違う音色でソロをとるのでエレクトリックの楽器を用います。」八木さんらしい何のジャンルにも属しない音楽だと思います。

4 「通り過ぎた道」PUNKTライブ・リミックス
PUNKT Live remix of
"The Road Not Taken" by Jan Bang, Erik Honoré,
Eivind Aarset, Nils Petter Molvær and Dai Fujikura

恒例のノルウェーPunkt軍団と僕によるライブリミックス。これは僕個人的に弾いてとても気持ちいい。ニルスベッターのトランペットと、僕が弾いたら即「取られて」加工されて音が飛んでいく、横見たらヤン・パンダがニコニコしていて、今聞いたばかりのリミックスの元になる音源、今回は八木さんの「通り過ぎた道」の断片が聞こえる。。。

5 テリー・ライリー／In C
Terry Riley: In C

去年のボンクリを見た人で「ぜひたまには誰でも知ってる名曲を!」という事で、ボンクリでは異例の、本当に誰でも知っている

名曲を選んでみました。僕もチャイコフスキーの交響曲は知らないけど(幾つあるんでしたっけ?)ライリーのIn Cは何回も演奏したことがあるし、聞いたことがあります。今回はアンサンブル・ノマドの奏者の子供達、ノマドキッズも参加します。

6 坂本龍一／honj I ~ III (日本初演)
Ryuichi Sakamoto: honj I ~ III (Japan premiere)

本條秀慈郎さんが坂本龍一さんに作品を委嘱していたのを知っていたので、たまたま日本初演の予定はあるのか聞いてみたところ、まだない、というので、ぜひ! と思いこのコンサートで日本初演していただくことにしました。坂本龍一さんの三味線ソロの音楽、どんな曲なのでしょう!

7 大友良英／新作 (世界初演)
Yoshihide Otomo: New work (world premiere)

僕が単に一方的にファンな大友良英さん、去年のボンクリフェスの打ち上げで「俺、来年も出たいなあ!」っておっしゃってくださったので、すかさず「ぜひ!」と。僕もああいう風に音楽が作れたらなあ、といつも思いながらリハーサルの様子や、本番の演奏を見えています。

8 藤倉大／春と修羅 (映画『蜜蜂と遠雷』より)
Dai Fujikura: Spring and Asura

この作品はほんの数ヶ月前に思い立って入れることにしました。おそらくみなさんもお存知のベストセラー小説『蜜蜂と遠雷』が10月4日公開の映画になったのですが、そこに出てくる架空の作曲家が書いた架空のピアノ曲「春と修羅」は僕が書いています。物語の中で重要な部分を占めるこの作品。映画公開よりボンクリフェスがちょっと前なので、おそらくこの「春と修羅」を生で聞くのはこのコンサートが初なんじゃないかな、と思います。

今回はピアニストは萩原麻未さんに頼みました。映画では4人のピアニストがそれぞれ違う即興のカデンツァを演奏しますが(その4つの即興を僕は作曲しています)、萩原さんに「好きなバージョンを選んでください」と言っていて、僕も今の時点でどのカデンツァを弾くのか、分かりません。

9 藤倉大／ホルン協奏曲第2番
(アンサンブル全編版世界初演)
Dai Fujikura: Horn Concerto No.2
(World premiere of complete ensemble version)

この作品はホルン奏者の福川伸陽くんが個人委嘱してくださった協奏曲で、世界初演はベネチアビエンナーレで行われました。その協奏曲のオーケストラの部分をアンサンブルに作曲し直し、前半は別のところで初演されたのですが、今回は全編を通したアンサンブル版の初めての演奏となります。福川くんとは前にもいくつかのソロの作品を委嘱してくださり、福川くんと長時間にわたるホルンの奏法の実験をし、僕は普通のホルンの奏法があまり好きではないので、どうやったらホルンっぽくない音がホルンから出せるのか、を日本の大スターホルン奏者、福川くんを捕まえて実験をしていました。この協奏曲にもいくつかの「なんじゃこりゃ?」みたいないつものホルンの音じゃない音が満載です。



大人ボンクリ

Born Creative Festival for Grown Ups !

19:00開演(18:00ロビー開場)

会場 コンサートホール

楽曲シーケンス: Nagie

Music Sequence: Nagie



参加アーティスト選曲による“出演者なしの電子音楽コンサート”。

これはたまたま、コンサートホールでするコンサート、スペシャル・コンサートを今年は昼間にしよう!と決めた時に、素晴らしい響きのコンサートホールは夜空にいて、だったらそこで巨大なリスニングルーム、みたいなことできないかな、と東京芸術劇場の音響スタッフのトーンマイスター 石丸さんに相談してみたら「いいですねー、やりましょう!」と仰ってください、実現することになりました。ホールに沢山のスピーカーを置くのではなく、もう既にホールにあるスピーカーを使って、マルチトラックではありますが、サラウンドとはまた違う音響を狙おう、という考えです。ホールそのものの響きを生かそう、と。音響テストもしていただき、その時の感想が「前代未聞のシステムプランで、コンサートホールの新しい公演形態の提案、提示になる!」と石丸さんが言っていたので、僕も楽しみです。

そこで流れる作品は僕、石丸さん、檜垣さん、ジルベール・ノウノ、ヤン・バングが持ち寄った「このスペースで聴きたい!」という音源です。デヴィッド・シルヴィアン自身の作品やデヴィッド・トープの作品などもあります。

Program

1. ベランジェール・マキシマン Bérangère Maximin: “Reality Hackers” (08:25)
2. 檜垣智也 Tomonari Higaki: “Arbre De Silence” (12:24)
3. 石丸耕一 Koichi Ishimaru: “Humain (ユマン 或いはゲノム《Genom》)” (20:08)
4. デヴィッド・トープ David Toop:
“Six (provisional) pieces from Slow Moving Creatures, 2019” (17:54)
 - You could touch him but he wasn’t there (3’ 02”)
 - Some of them
(to isolate themselves even further, beat their own ears until the tiny bones within were crushed) (3’ 31”)
 - For believing
(you were a strange beautiful unearthly creature from a faraway planet) (2’ 06”)
 - She fell asleep somewhere outside the world (3’ 08”)
 - Possibly it was only the coming of certain indefinable hours when she felt warm and expansive
(when her sensations...) (1’ 54”)
 - Small soft beings in a flickering state (4’ 12”)
5. 鈴木隆彦 Takahiko Suzuki: “Confession” (11:40)
6. ヤン・バング Laraaji_Jan Bang feat. Eivind Aarset: “Between Them” (07:21)
7. ジルベール・ノウノ Gilbert Nouno:
“Essay for a scientific and poetic methodology” (10:32)
8. ヤン・バング Jan Bang: “Noticing Things” (09:10)
 - Part 1: REPLICA
 - Part 2: FLOODED CORRIDORS
 - Part 3: IMPLANTED MEMORIES
9. デヴィッド・シルヴィアン David Sylvian:
“When We Return You Won’t Recognise Us” (18:24)

Artist Profile



アンサンブル・ノマド

Ensemble NOMAD

現代音楽アンサンブル

Contemporary music ensemble

ギタリスト佐藤紀雄の呼びかけによって集まった無類の個性豊かな演奏家によって結成されたアンサンブル。「NOMAD」(遊牧、漂流)の名にふさわしく、時代やジャンルを超えた幅広いレパートリーを自在に採り上げ、斬新なアイデアやテーマによるプログラムによって独自の世界を表現するアンサンブルとして内外から注目されている。

指揮・ギター: 佐藤紀雄

フルート: 木ノ脇道元

オーボエ: 林 憲秀

クラリネット: 山根孝司

ファゴット: 塚原里江

ホルン: 萩原顕彰

ヴァイオリン: 花田和加子

ヴァイオリン: 川口静華

ヴィオラ/ヴァイオリン: 甲斐史子

チェロ: 山澤慧

コントラバス: 佐藤洋嗣

ピアノ: 中川賢一

パーカッション: 宮本典子

ステージ・マネージャー: 松本努

〈ノマドキッズ〉

荒木美袖

菊地康太郎

菊地優衣

木ノ脇カンナ

鈴木一青

清野葵

清野水貴

二宮成翠

二宮伶寧

淵田多紀

淵田鈴依

佐藤紀雄

Norio Sato

指揮・ギター

Conductor, Guitar



ギター奏者として古典のレパートリーのほか武満徹、高橋悠治、近藤譲、松平頼暁、福士則夫などの作品の世界初演を手掛け、また指揮者としても内外の現代作品の演奏、初演を行っている。1997年にアンサンブル・ノマドを結成し、音楽監督に就任。ソロ、アンサンブルのCDも多数リリースしている。

福川伸陽

Nobuaki Fukukawa

ホルン

Horn



NHK交響楽団首席ホルン奏者。ソリストとして、リサイタル、協奏曲演奏などを日本各地で行う。「ホルンのレパートリーの拡大」をライフワークとして、作曲家への委嘱活動や、珍しい室内楽の紹介を積極的に行っており、吉松隆、藤倉大、鈴木優人他多数の作曲家から作品を献呈されている。東京音楽大学兼任准教授。

八木美知依

Michiyo Yagi

箏

Koto



邦楽はもちろん前衛ジャズや現代音楽からロックまで幅広く活動するハイパー箏(こと)奏者。多くのジャズ・フェスティバルのステージに立ち、世界中の優れた即興家と共演を続けるかたわら、J-POPアーティストのステージや録音にも参加。英ワールドミュージック誌Songlinesの《世界の最も優れた演奏家50人》に選ばれている。

本條秀慈郎

Hidejiro Honjo

三味線

Shamisen



本條秀太郎氏に師事し、本條秀慈郎の名を許される。桐朋学園短期大学部卒業、在学中故杵屋勝芳壽氏に師事。現在同大学講師。現代邦楽研究所修了。ACCフェローによりニューヨークへ留学。文化庁文化交流使に任命され、アンサンブル・モデルン、アンサンブル・アンテルコンタンポランらと共演する。現代の三味線音楽を模索している。

ヤン・バング

Jan Bang

エレクトロニクス

Electronics



音楽家、レコードプロデューサー。ノルウェー南部の町クリスチャンサンで育ち、同郷の音楽家エリック・オノレと音楽活動を始める。2005年からはライブリミックスをコンセプトとした即興音楽祭「ブンクト」を立ち上げ、現代ノルウェーで最も革新的な音楽家の1人として活躍している。

エリック・オノレ

Erik Honoré

エレクトロニクス

Electronics



作家、音楽家、レコードプロデューサー、サウンドエンジニア。音楽祭「ブンクト」の共同設立者。2017年に最新ソノラルバム「UNREST」をリリース。



Artist Profile

アイヴィン・オールセット

Eivind Aarset

ギター

Guitar



現在ノルウェーで最も人気のあるギタリストの1人。デビュー作『Electronique Noir』は「マイルス以後のエレクトリック・ジャズで最も優れたもの」(ニューヨーク・タイムズ)と評されている。

ニルス・ペッター・モルヴェル

Nils Petter Molvær

トランペット

Trumpet



ノルウェー出身のジャズトランペッター、作曲家、レコードプロデューサー。ジャズと電子音楽を融合させたフューチャー・ジャズのパイオニアとして作品を発表し続けている。

大友良英

Yoshihide Otomo

作曲

Composition



ターンテーブル奏者、ギタリスト、作曲家。実験的な音楽からジャズやポップス、NHKの朝の連続小説「あまちゃん」の作曲など作風は多様。日本はもとより世界各地で多くのアーティストとコラボレーションを行う。NHK大河ドラマ「いだてん」の音楽を担当する。

萩原麻未

Mami Hagiwara

ピアノ

Piano



2010年第65回ジュネーヴ国際コンクール(ピアノ部門)において、日本人として初めて優勝。これまでに、スイス・ロマン管、南ドイツ放送響等の主要オーケストラと多数共演を重ねているほか、ヨーロッパ各地の様々な音楽祭に招かれている。

東野珠実

Tamami Tono

笙

Sho



雅楽を芝祐靖に師事。笙奏者として、90年より国立劇場主催公演をはじめ、ウィーンモデルン等に出演。Yo-Yo MA、坂本龍一、田中泯らに招聘されるなど、古典から新作まで幅広いジャンルで創作・演奏を通じ活動を展開。星篋(HOSHIGATAMI)プロジェクト主宰。

永見竜生(Nagie)

Tastuo Nagami

サウンドデザイン

Sound design



マルチ・サウンドクリエイター、レコーディング・エンジニア。「藤倉大が考えるボーヤージュ」(ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2019)、藤倉大 / 歌劇「ソラリス」(東京芸術劇場 2018) にてエレクトロニクス / サウンドプロジェクトを担当。蒲池愛の現代音楽作品のMaxプログラミングを行いISCM、ICMC、NIMEに入選。aikamachi+nagie、ANANT-GARDE EYESとしてCM、アニメ、映像作品のRecodingからMix、作曲を行う。卓越した音響加工の手腕が評価されている。
<https://www.aikamachi-nagie.com/>

檜垣智也

Tomonari Higaki

「電子音楽の部屋」監修

“Electronics Music Room” Supervisor



愛知県立芸術大学大学院修了。博士(芸術工学、九州大学)。フランス留学中に現代音楽の作曲とアコースモニウムの演奏で注目される。ハーバード大学、ケルン大学、Futura音楽祭等で招待公演を行う。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、回路の詩神、高橋アキ等から委嘱をうける。2枚のソロCD『Mahoroba』(2011)、『囚われた女』(2015)をリリース。第5回国際リュック・フェラーリ・コンクール最高賞(2003)、第18回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(2014)など受賞、入選多数。大阪芸術大学客員教授。同志社女子大学、相愛大学講師。

ジルベール・ヌノ

Gilbert Nouno

「電子楽器工作の部屋」講師

“Electronic Toys Orchestra’s Room” Lecturer



作曲家、サウンドアーティスト、パフォーマー、ポンビドゥー・センター<イルカム>研究員。コンピューター音楽と人工知能分野で博士号を取得。現在も研究を続行しながら、エレクトロニクスと弦楽器をコラボレーションさせた作品を発表している。シンセサイザーを駆使し、ヴィジュアルアートやデザインにインスパイアされたジャンルを超越した多彩な作風をもつ。これまでにジョナサン・ハーヴェイ、ピエール・ブーレーズ、藤倉大、フランソワ・グザヴィエ・ロトラと共演。ロンドン王立音楽大学作曲科教授。

石丸耕一

Koichi Ishimaru

「トーンマイスター石丸の部屋」講師

“Tonmeister Ishimaru’s Room” Lecturer



舞台音響を辻亨二氏に、オペラの音響をポリショ劇場元芸術監督ボリス・ボクロフスキー氏に師事。歌舞伎座、新橋演舞場勤務の後、東京芸術劇場音響チーフ、劇場主催のオペラ「藤倉大 ソラリス」(日本初演)「野田秀樹×井上道義 フィガロの結婚」等のサウンドデザインに携わる。昭和音楽大学講師を兼務。





蜜みつばちと遠雷えんらい



松岡茉優 松坂桃李 森崎ウィン
鈴鹿央士(新人) 白田あさ美 ブルゾンちえみ 福島リラ / 眞島秀和 片桐はいり 光石 研
平田 満 アンジェイ・ヒラ 齊藤由貴 鹿賀丈史

原作: 恩田 陸「蜜蜂と遠雷」(X)冬舎文庫 監督・脚本・編集: 石川 慶

「春と修羅」作曲: 藤倉 大 ピアノ演奏: 河村尚子 福岡洸太郎 金子三勇士 藤田真央 オーケストラ演奏: 東京フィルハーモニー交響楽団(指揮: 円光寺雅彦)

製作: 映画「蜜蜂と遠雷」製作委員会 製作プロダクション: 東宝映画 配給: 東宝 ©2019 映画「蜜蜂と遠雷」製作委員会 (E) TOHO

10.4
Fri. Roadshow

史上初!! 直木賞&本屋大賞 W 受賞作待望の映画化!!

ボンクリ・フェス2019

“Born Creative” Festival 2019

主催 = 文化庁、公益財団法人東京都歴史文化財団
企画制作 = 東京芸術劇場（公益財団法人東京都歴史文化財団）
助成 = 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション



文化庁委託事業
「2019年度戦略的
芸術文化創造推進事業」

機材協力 = ポーズ合同会社 
協力 = サントリーホールディングス株式会社

